（特活）バングラデシュと手をつなぐ会 会報誌

Milon

December 2024 No.155

大規模抗議デモと政権崩壊
バングラデシュの未来を一緒に考えよう

五ケ山オカリナコンサート　モスク体験ツアー
九州国際大学出前講座　事務所移転のお知らせ

代表あいさつ

この半年間を振り返って

バングラデシュと手をつなぐ会代表　ニノ坂保喜

はじめに

バングラデシュでは、国全体を揺さぶる大変な事態が起きています。今回のミロンにも、ラフマン、ニノ坂がそれぞれの立場からの見方を書いていますが、皆さんもそれぞれの視点から関心を持ち続けていただきたいと思います。

さて、この半年間を振り返っても、私たちの活動を取り巻いて、いろいろな出来事がありました。大きなことの第一は、事務所の移転です。何よりも、国道沿いのバス停のそばで、とても便利な場所です。一度お立ち寄りください。

第二には、昨年に続いての「モスク体験ツアー」。FUNN と真如苑の NGO 活動助成金をいただき、11 月に実施しました。モスクを見学、礼拝し、イスラム文化に触れるイベントに、今年は高校生や教員たちも参加してくれました。異文化に直に触れることで、新しい世界が開けたのではないでしょうか。また、九州国際大学では、国際協力実践論として山田とニノ坂が、講義を行いました。このような若い世代への働きかけを、いろいろな工夫をしながら継続していきたいものです。

これからは、バングラデシュ料理教室（2 月）や、ションダニとのオンライン交流なども行います。年2回のミロン発行も継続していきます。今年も暮れていきますが、新しい年もみなさん、どうぞよろしくお願いいたします。

目　次

【代表あいさつ】この半年間を振り返って

【バングラデシュで今、起こっていること】二ノ坂保喜　ラフマン・モクレスール

【イベント報告】・6/24　九州国際大学出前講座　山田英行
・10/13 五ケ山オカリナコンサート　小峰小百合
・11/2　モスク体験ツアー(九州地域 NGO 活動助成金事業)
吉武ひな　尾﨑康平　野村美幸　渡邉善治　山田英行

【カラムディ村だより】ラフマン・モクレスール

【事務局だより】・事務所移転・行事予定・会計報告など

バングラデシュで今、起こっていること
～バングラデシュでの政変を考える～

二ノ坂 保喜
手をつなぐ会代表

今年の8月、バングラデシュで大きな政治的な変化が起こりました。学生や若者たちのデモが反政府活動へと広がり、15 年にわたって政権を保ってきたアワミ連盟のシェイク・ハシナ首相が退陣し、インドに亡命しました。
きっかけは、クオーター制度と言われる制度をめぐる裁判の争いでした。1971 年のバングラデシュ独立戦争に参加・貢献した freedom fighters と呼ばれる人たちの子孫を、国家公務員に採用する際に優遇する制度（公務員の 30%を割り当てる）です。それに学生の反対運動が起こり、運動が弾圧され、学生が殺されたりしました。学生運動は市民を巻き込んで激しくなり、反政府運動へと広がり、今回の事態に至りました。

クオーター制度反対デモ　WikimediaCommons

この背景には、長い間続いているアワミ連盟とBNP（バングラデシュ民族主義者党）との政治的な確執、15 年の長期にわたるハシナ政権の政治的腐敗、経済をはじめとする様々な政策での強圧的な手法などが背景にあったようです。

ハシナ首相

ユヌス教授

そして、ハシナ首相のインドへの逃亡とともに、パリにいたユヌス教授が暫定政権の顧問として着任しました。
ユヌス教授は、グラミン銀行を設立し、貧しい国民のためのマイクロクレジットの実行で 2006 年ノーベル平和賞を受賞した方として有名です。彼は、バングラの若者、学生の強い要望に応じてこの役を引き受けた、と語ります。実際閣僚には、学生 2 名を始め、NGO のメンバーなどが入っています。しかし、政治的な手腕は未知数です。

11月には、ユヌス博士が就任後100日を迎えました。彼は積極的に国連や諸外国とも接触し、活動しています。これからのバングラデシュには、課題が山積しています。2026 年には、LDC（Least Developed Country 最貧国）から脱却すると言われており、日本も様々な形で支援をしてきていますが、その実現のためには、経済や貿易、教育、政治改革など多様な変革を着実に進める必要があります。また、当面の重要課題として、民主的な選挙の実行が求められています。
優れたリーダーに恵まれなかったと言われるバングラデシュの政治において、ユヌス博士が学生や若者たちを中心に国民を率いて、新しいバングラデシュをどのように構築していくのか、強い関心を持って見守っていきたいと思います。

ラフマン・モクレスール
手をつなぐ会副代表

バングラデシュは近年、経済成長が著しく、後発開発途上国から卒業できる基準を達成し、生活様式、一人当たりの所得、健康状態、教育、交通、学校教育制度などが改善されていました。
しかし突然、政治的・社会的枠組みに大きな変化が今回、起こりました。

政府の雇用割当制度に対する学生の抗議デモが広まったことを受け、シェイク・ハシナ首相は８月に辞任し、ノーベル賞受賞者のムハマド・ユヌス氏が率いる暫定政権が発足しました。暫定政府は選挙改革の実施と自由で公正な選挙の実施に注力しています。
しかし、同国はいくつかの課題に直面しています。

1.政治的不安定
首相の辞任により政治情勢が変化し、改革を通じて安定を取り戻す努力が必要です。
2.経済的ひずみ
バングラデシュは、高債務、外貨準備の減少、繊維部門の混乱などの経済問題に対処するために暫定政府は国際金融支援の確保と経済改革への取り組みが喫緊の課題です。
3.健康危機
同国では深刻なデング熱の流行が発生しており、2024 年には 400 人以上が死亡、数万人が入院しています。
4.国際関係
新政権は、バングラデシュの世界的地位の向上と援助確保のため、国際パートナー、特に米国との関係強化が求められています。

■今後の見通し
暫定政府は、政治改革を実施し、経済と公衆衛生の向上に取り組むことで、国家を安定させることに注力しています。
これらの取り組みが、バングラデシュの行く末を左右すると思われ、バングラデシュの今後を占う上で極めて重要です。

❑イベント報告

■6/24 九州国際大学出前講座

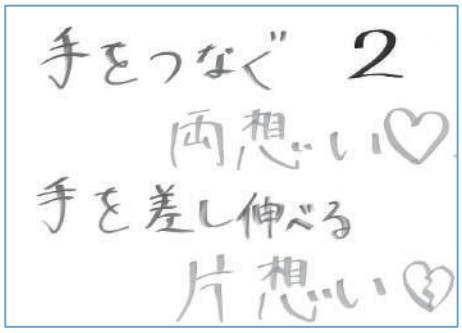
私たちの関係は両想い？片想い？
手をつなぐ会事務局　山田 英行

NGO 福岡ネットワーク副代表・藤井大輔氏が講師を務める九州国際大学の「国際協力実践論」での一コマを頂き、6月24日にバングラデシュについて出前講座をニノ坂代表と私でおこなった。
対象は現代ビジネス学部国際社会学科3年生および4年生の 31 名。

講座内容は、序盤がニノ坂代表による「バングラデシュと手をつなぐ会 35 年の歩み」、中盤が私が体験してきたことを「海外協力と私」というお題で発表し、終盤にワークショップ形式で海外協力について、クイズを交えながら深堀りした。

講座開始前に「授業では学生からの質問は、ほとんどないのが当たり前ですよ」と藤井准教授から一言。
熱心に聴いてくれてるという手応えはあるものの、質問することで自分が目立ってしまうことを良しとしないという事なのだろうか。

ワークショップでの問い「手をつなぐ関係性とは？」に対して、一人の学生の回答が目を引いた。



・手をつなぐ→両想い
・手を差し伸べる→片想い
なるほど、目からウロコの解釈にぐっと来た。

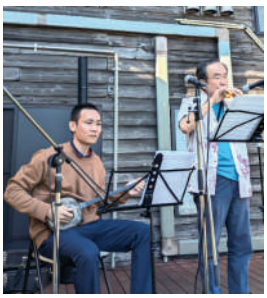
私たち手をつなぐ会と現地パートナーのションダニションスタの関係は、果たして、両想い？片想い？

■10/13 五ケ山オカリナコンサート

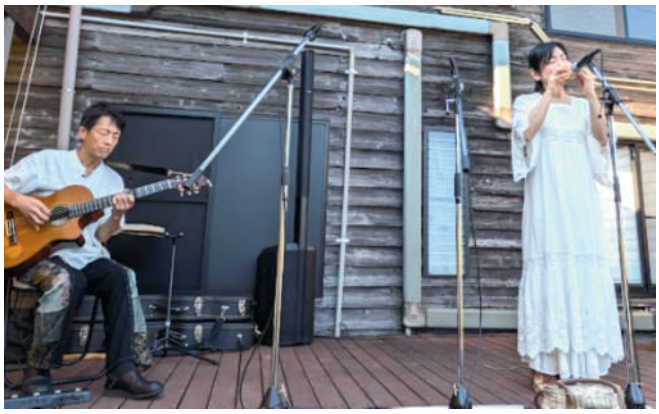
キンモクセイの香りにつつまれて
峰松 小百合

10月13日に佐賀県の背振山麓にある五ヶ山豆腐店でオカリナコンサートが開催されました。

私たちオカリナ演奏グループ「花時計」は９年ぶり２回目の参加となります。
金木犀の香りを感じ、青空のもと五ケ山ダム湖やすすきを眺めながら演奏する気持ちよい舞台となりました。



最初に手をつなぐ会の二ノ坂代表によるオカリナとにのさかクリニックの先生が奏でる沖縄三味線(サンシン)と共に沖縄の楽曲を２つ披露されました。
続いて代表ご夫妻が「野に咲く花のように」を、山の音楽家Shana さん(オカリナ：原麻由子さん・ギター：原健太郎さん)が「さとうきびばたけ」と「紅葉(もみじ)」を演奏されました。
オカリナの音色が青空に澄み渡り幸せなひとときでした。

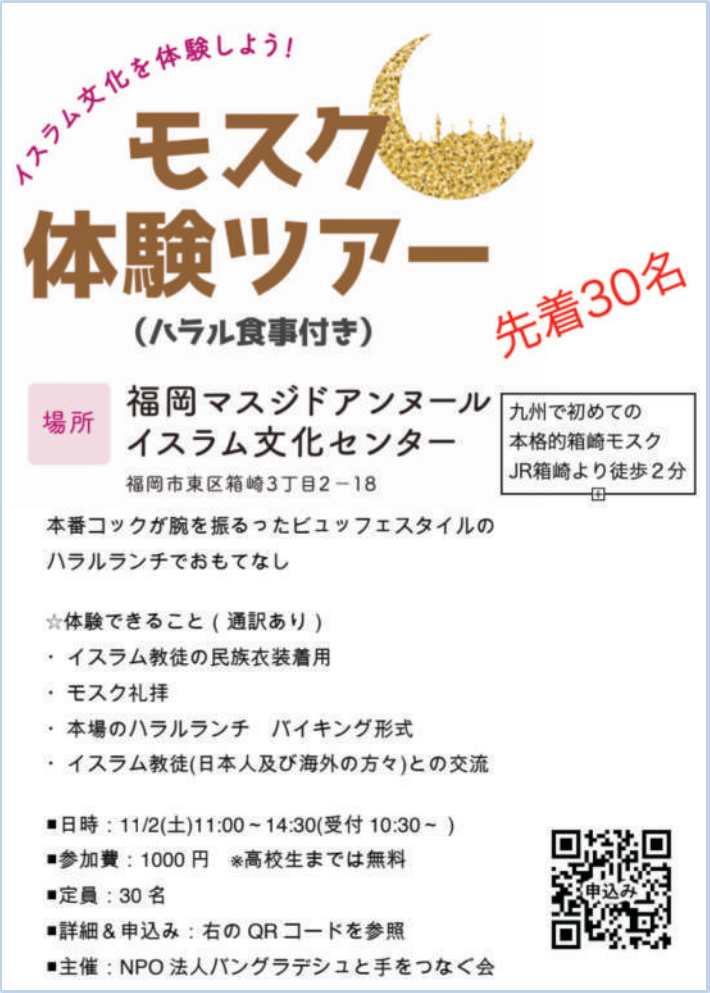


「こんにちは。私たち花時計は結成して 11 年目になります。今日 1 名欠席 6 名で演奏をします。」と挨拶をしましたが、私たちのオカリナの先生、Shana さんの後に演奏するのですから、みんなドキドキです。

「パフ」「チキチータ」「上を向いて歩こう」をお客様の手拍子で助けられ、私たちは楽しくオカリナを吹きました。
コンサートの帰り際には「バングラデシュと手をつなぐ会」の募金箱にはバサッと入れられる音のするお札がいっぱい、入っていました。

世界には悲しいことに戦争が続き、水や食料が手に入らない劣悪な環境で暮らす人が大勢います。バングラデシュで「教育」「保健医療」「生活向上」に活動されている先生達に敬意を払い、世界の平和を願い、参加できたことを本当 に感謝申し上げます。

■11/2 モスク体験ツアー



昨年に引き続き２回目の開催です。
開催当日は大雨で交通機関ダイヤが大幅に乱れ、不参加が多くなるのではと心配しましたが、4名欠席の28名に来ていただきました。
今回はバングラデシュに関心を寄せる高校生が7名も参加してくれて、華やいだ雰囲気となりました。

福岡工業大学附属城東高等学校２年
吉武　ひな

11 月 2 日にバングラデシュと手をつなぐ会主催の箱崎のモスク体験ツアーに参加させていただきました。あいにくの雨でしたが、素敵な時間を過ごすことができました。

初めのモスク内見学では、マイクが無くても1階のミンバルから２階まで声が届くようになっていて、すごいと思いました。
また、男性と女性でお祈りの場所が違うこと、礼拝の様子を実際に見せていただき、知識を増やすことができました。さらに、イスラム衣装も着させていただいて貴重な体験になりました。

次のイスラム世界や文化についての講義では、イスラム教についての正しい情報を知ることができて良かったです。
現在、私たちが使っている数字はアラビア数字が元になっており、辺がつくる角の数が由来になってると知り、とても面白いと思いました。
また、普段から良い行いをすれば、その行いの結果が自分に返ってくる、という考えは日本人と似ているなと感じました。
地域の伝統とイスラム教が混ざってしまい、誤った情報で偏見や差別が起きていることを聞いて、私も偏見の気持ちを抱いていたかも知れないと、振り返ることができました。
正しい情報をまずは母校で伝えていきたいです。

グループに分かれての食事会では、本場のカレーを初めて食べることができました。甘いものと辛いものの食べ比べをし、楽しむことができました。日本のカレーよりもスパイスが効いていたので、新鮮でとても美味しかったです。

また質疑応答では、ある事柄に対して、同じイスラム教徒にも関わらず、違った意見もあり、興味深いなと思いました。

今回、この体験を通してさまざまなことを学び、貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

ミンバル（minbar）とは、イスラム教の礼拝堂であるモスクに設置されている階段状の説教壇です。モスクの内部では、礼拝の方向を示す「ミフラーブ」の向かって右側に位置しています。

差別をなくすカギ

福岡市高校教諭　尾﨑 康平

普段、世界史教師として世界の歴史や文化を教える中で、生徒からの質問が多いのは「イスラム世界」についてでした。おそらく、生徒からするとイメージがしづらいのでしょう。かくいう私も、回答の大部分を教科書やインターネットの情報任せにしており、「本当に私が生徒に話していることは正しいのか？」という疑問からマスジド福岡さんへの訪問を決めました。

「バングラデシュと手をつなぐ会」の皆様とご一緒できたのは、たまたま日程が合ったからですが、大勢の温かい皆様と、真剣にイスラム文化について考えられる経験ができたことを幸運に思います。

マスジド福岡の皆様からは温かい笑顔で迎えられ、館内の見学、女性の方の衣装着用体験、礼拝見学など異文化体験には思いのほか緊張せず、自然体で学び、楽しむことができました。

館内は清潔で厳かな雰囲気で、いたる所に本棚があり、中には子どもにもわかりやすくイスラム文化やクルアーン(コーラン)の内容がわかる本が置いてありました。全体的に、決して排他的ではなく、むしろすべての人を愛し受け入れる精神が感じられました。
もしかしたら特別そう感じた自分自身には、「偏見の目」があらかじめ備えられていたのかもしれません。

後半のイスラム文化に関する講演や質疑応答では、いかに自分が表面的な理解に留まり、勝手な印象を正解と思い込んでいたか自覚できました。

・なぜムスリムのヒジャブだけが女性差別的だと印象付けられているのか？

・なぜイスラム過激派がイスラム教の代表例と扱われるのか？

・なぜムスリムの犯罪だけが「イスラム教徒の〇〇が犯罪を起こした」と報道されるのか？

「悪いことをしてしまうのは宗教の問題でなく、個人の内面やその国独自の文化や環境の問題である。宗教差別につなげないでほしい。」そういった話を聞き、改めて子どもたちにより良い教育を保障することも、差別をなくすカギであると身が引き締まりました。

違う文化圏で生活する人々の全員が完全に理解し合うことは困難ですが、「違うことが悪い・怖いということではない」ということを理解することは、平和への一歩だと感じました。
自分の幅が広がり、他者の考えに寄り添える、良い時間でした。
皆様ありがとうございました。
ハラルランチのカレーも、最高でした！

ムスリムにとってのヒジャーブとは

野村 美幸

当日は老若男女の多くの方がお越し下さりました。
私たちムスリム(イスラム教徒)にとって大切な場所であるマスジド(モスク)内を見学し、アマー美穂さんのプレゼンの後に、参加者からの質問にイマームを始めとして複数のムスリムからお答えする時間も設けられ、充実した時間を過ごさせて頂きました。

クルアーン通読、女性の礼拝着着用、ランチ等「異国情緒を感じるね」と参加者が楽しまれる様子もお見受けし、とても嬉しく心温まりました。

マスメディアの影響は大きく、イスラムは“女性を抑圧している”との印象を持たれることもあります。

「なぜ女性はヒジャーブを被るのか？」「なぜ食事、礼拝、行事等で男女別に分かれるのか？」などの率直なご質問があり、多くの事を知って頂ける契機となりました。

イスラムでは「天国は母の足元にある」と言われ、父親よりも母親が物凄く大切に尊重されます。女性にのみ与えられている特権もあります。
女性の身体を覆うヒジャーブは女性を守るためのものであり、女性に敬意が払われ、大切にされているからこそであるとの回答には「初めて知って衝撃だった。誤解していた。」というお声も頂きました。

「女性が高級車の前に立つコマーシャルや、ハリウッド映画で登場する露出度の高い女性に対しては、女性の内面を尊敬・尊重して見ているのではなく、外見を興味本位で見ているのではないか。女性を物として扱ってはいないだろうか。」というムスリムの発言には、私自身考えさせられるものでした。

今回のイベントを通し、ムスリムと交流しながら直接自分の目で見たり聞いたりする中で、本当のイスラムを知り誤解が解かれていったことをとても嬉しく感激しました。
唯一の神アッラーを称賛し感謝し、素敵なイベントを企画、用意下さったバングラデシュと手をつなぐ会に心から御礼申し上げます。

イマーム（imām）はアラビア語で「指導者」を意味し、モスクでの礼拝の導師を表します。

「知らない」ゆえの偏見

渡邉 善治

事務局の山田さんからお誘いがあり、イスラムについて学ぶ機会をいただきました。

場所は箱崎駅近くのイスラム文化センター。県内では唯一のモスク施設だそうです。

プログラムは、プレゼンテーション、ムスリム衣装の試着、モスク礼拝の見学、ハラルランチで懇談意見交換といった具合です。

学んだことはたくさんありました。イスラムの教えとイスラム以前の地域文化の習慣がしばしば混同して認識されていること、ムスリムは何よりも家族を大切にしていること、イスラムの戒律は日本人の道徳観に近くてムスリムから見ると日本人の振る舞いは、それを実践しているかのように映ること。ムスリム＝テロリストというバイアスがマスコミ報道などによって作り上げられていること、などです。

とくにイスラムの女性観については意見が飛び交いました。テーブル席が男女別になっているのはなぜか。ヒジャブを被る理由はなにか。それはどちらも、イスラムでは女性がとりわけ敬われている、守るべきものであるという思想が根底にあるからのようです。
平たく言うと、女性が男性と必要以上に交流したり肌を露出すると、男性は女性を性欲の対象としか見なくなるので、その危険から女性を守らなければならない、という理屈です。
一方で、いまの女性は守られるばかりではなく自立すべき存在であると考える意見もあって、伝統的な制約から解放されたいと願う女性もいるのだろうなということは感じました。

普段知ることの少ないイスラム文化ですが、「知らない」ゆえの偏見があることはとても不幸なことで、

実際に接してみないと分からないことはたくさんあるはずです。近い将来、日本は（ムスリムを含む）多くの移民の受け入れなしでは回わらなくなるでしょう。そのときに無用な摩擦を起こさないためには、いまのうちからこのような機会をたくさんもって、互いを学ぶことがとても大切なことだと思っています。実際にお話しできた方は、みなさんとても礼儀正しく優しい方ばかりでした。
お招きいただいた山田さんにも感謝いたします。

ハラル（Halal）とは、イスラム教の教えにおいて合法、許されるという意味のアラビア語です。イスラム教徒が口にしていい食べ物をハラルフードといいます。

モスク体験ツアーを振り返って

手をつなぐ会事務局　山田 英行

参加者 28 名(女性16・男性12)中、22 名からアンケートを頂きましたので、共有させていただきます。

Q:これまでに国際協力 NGO や多文化共生のイベント・勉強会に参加したことがありますか？
A:参加回数なしが15名、1回1名、4回1名、5回以上5名 今回初めての参加者が多かったことが特徴です。高校生7名を差し引いてもこの結果には驚きです。

Q: これまでムスリム（イスラム教徒）に関してどのような印象でしたか？
A:①規律ある生活をしている18名 ②穏やかで平和を好む 12 名 ③宗教の戒律が厳しい 15 名 ④女性差別がひどい 12 名 ⑤自爆テロなど復讐するのでとても怖い 3 名

Q：今回のイベントで何を学ぶことができたと思いますか。
A:・イスラム各国の決まりを学び、考える機会をもらった
・多様性の理解が深まった。
・イスラム教、地域別服装、ハラール
・イスラム教の礼拝の仕方、イスラムから見た日本人の印象
・ネット、メディアだけでは分からないイスラムの根底にある価値観
・イスラム教について深く知ることができた。
・礼拝は太陽の軌道時間に合わせて行われること
・ムスリムの人となり

Q:外国人労働者・移民について（複数選択可）
A:・必要と思うが定住して欲しくない 0 名
・治安が悪くなるから来て欲しくない 1 名
・人口減少で労働力不足となるのが解消できるので増えてもよい 5 名
・日本の経済発展には必要な存在だと思う 14 名
・必要と思うが隣人、友人にはしたくない 1 名
・その他（・特に何も思わない・相互理解が必要だ
・本音は日本の経済発展には必要な存在だと思うが、それを超えた交流を持ちたい）

Q:交流会について
どのような対話が印象にのこっていますか。
A:・男女が別れて食事する理由
・ヒジャブの着用についての質疑応答
・日本に対するムスリムの感想
・メディアによって生み出されてるイスラム教に対しての偏見

Q:全体を通して満足していただいたでしょうか。
A:大半が満足と回答し、以下がその理由です。
・とても良い企画構成で運営もよかったが、更に説明が必要だと思った。
・衣装着用体験ができ、プレゼン内容が関心があることが多く、自分が知らなかったことを学ぶいい機会になった。
・イスラム教徒の実態について当事者から直接聞くことができた。
・礼拝の仕方を詳しく教えてくれたり、やさしく声を掛けてくれて、とても楽しい体験ができた。
・今まではニュースなどでしかイスラム教の情報を知ることがなかったけど、直に話を聴いて、メディアによって自分の中のイメージが作られていることがわかった。
・イスラム教のことをたくさん知り、もっと知りたい。
・ネットで調べたことと、直にムスリムから聴いたことの違いが分かった。

Q:ご感想やご意見などありましたら、お聞かせください。
A:・イスラム教に対する考えが良い方に変わった。ぜひ、イスラム教の国を訪問したい。若い人の参加が多く意外だった。
・イスラム教への誤解がその地域の文化、習慣の混同であること、女性の相続権などが初耳だった
・もっとこういうイベントが増えたらいいなと思った。昨今の悲しいニュースが少しでも減りますように。
・2回目の参加ですが、今回はゆっくり話を聞けてとても良かった。学ぶことが多かった、でもすぐ忘れるかも。
・他国の人との交流や礼拝体験などといった貴重な体験ができたことに感謝。
・質問タイムでイスラム教のことなどをたくさん知ることができた。イスラム教のことを含め、いろんな宗教について知りたいと思った。
・ランチのナンがとても美味しかったし、今まで知らなかったことを聞けて楽しい時間となった。

❑カラムディ村だより

ラフマン・モクレスール
手をつなぐ会副代表

■清掃活動

カラムディ村の教育環境は改善され、経済的にも良くなってきました。そのおかげでメヘルプール県内の遠方や Kushtia まで行き、より良い病院で治療を受けれる人もでてきてますが、それでもまだ十分だとは言えません。そのような大きな都会でも専門医がいないなどの問題が出てきており、実際、2 年前にはションダニ職員の奥さんがなくなったことがありました。

このような問題の要因を探るためにションダニ病院がリーダーシップをとって、協議する場を持ちました。近隣 17 校の教員らが話し合った結果、公衆衛生の悪さが第一の原因だとの結論に至りました。

衛生環境を改善するために学生らと共に教職員も清掃活動を一緒におこなうことにしました。ションダニ病院では清掃は徹底されていますが、それを地域全体に広げていくことが大切です。そのためにカラムディ・カレッジの先生たちが直接的に関わり、学校だけではなく、商店街の人たちも一緒にこの活動に取り組み始めました。この取組みが永く継続することを期待しています。

私は数年前にラジュシャヒ大学の学長にみんなで清掃活動しようと呼びかけ、一緒に有意義な一日を過ごしたことがありました。

清掃活動へのこのような取組みによって、生徒、学校関係者や地域住民が一体となって健康的な村に変わることを願っています。

■大学建設の遅延

メヘルプール県の大学建設計画が先送りになりました。政変による政治、経済の混乱により計画はストップされ、再開の見通しは立っていません。

❑事務局だより

■事務所移転について

事務局　野田景子

2024 年 9 月 24 日に早良区野芥から城南区干隈に事務所を移転しました。

会の設立当初から 30 年近く早良区西新に事務所を構えていましたが、2019 年に、にのさかクリニックにほど近い野芥フリーハウス（シェアハウス）に転居しました。西油山中央公園のふもとにある静かな環境でしたが、車で行かないと不便なこともあり、今回干隈のバス停から0分（すなわちバスを降りたら玄関前）、地下鉄七隈線野芥駅より800m、徒歩で約10分という場所に移りました。

来訪者の方々やボランティアの皆さんも、とても来やすくなったと思います。近くにお越しになった折はどうぞお立ち寄りください。事務局一同心よりお待ちしております。

なお、住所は変更となりましたが、電話やファックス番号は変更ありません。

どうぞよろしくお願いいたします。

新住所：〒814-0132 福岡市城南区干隈
1丁目16−25 ウェンディハイツ 303 号

■助成金・寄贈プログラム

採択：九州地域 NGO 活動助成金 10 万円
(モスク体験ツアーにて活用)

■２０２４年度下半期行事予定

・1/26(日) 南福寺バザー出展13:00～
・2/9(日)　バングラデシュ料理教室
講師：ヌレンさん　10:00～15:00(9:30 開場)
場所：福岡市健康づくりサポートセンターあいれふ

■新会員紹介

正会員、賛助会員の加入はありませんでした。

■会計報告

事務局　末岡智子

【2024 年度上半期の主な収支（4～10 月）】

・正会員会費	255,000 円
・賛助会員会費	219,000 円
・受取寄付金	1,912,272 円
・受取助成金	100,000 円
・人件費	1,031,900 円
・家賃・光熱費	455,699 円
・支払寄付金	1,605,000 円
ションダニ病院	1,000,000 円
ちょボラ募金	300,000 円
ジャパニ小学校	250,000 円
看護学校	55,000 円

【イベント収入】
・10/13 五ケ山オカリナコンサート 26,700 円
・11/2　モスク体験ツアー参加費　26,458 円

◆募金のご協力ありがとうございました。
（2024 年 6 月～2024 年 11 月）
敬称略/順不同

【ミロン募金】
秋吉美千代（日本セラピューテック協会）、有吉準子、飯野孝子、碇道子、石田陽子、市田敬子、伊藤良子、稲永みき子、平山正明（ウエルフェアネット）、大木ひろみ、大澤友二、小川信、押野圭子、帯田輝幸、鐘ヶ江寿美子、鐘ヶ江康子、金子貴美代、上潟口麻里子、蒲地純、川内恵美子、吉瀬恭子、草場耕二、久保田千代美、國光登志子、倉光剛郎、倉光東昭、古賀カツ子、小森重己、五反田千代、権藤説子、栄小知子、貞刈賜代、佐藤純子、柴田須磨子、重橋亨、白石信子、末岡智子、末次奈保子、鈴木崇世、瀬尾康子、関根悠紀子、副島タカ、髙嶋裕二、竹末龍也、田島寛、多々野須美子、立場美枝子、谷口純子、田村賢二、塚原晃子、道本実保、特定非営利活動法人たんがく、中野朝恵、長野洋子、中村サワ子、ニノ坂富士子、野副美喜、野田景子、濱田絹子、濱田民子、原紀子、廣田惠津子、福間比佐子、訪問ボランティアナースの会キャンナス湘南、細野容子、牧瀬千里、松添仁、松田純子、三坂眞紀子、溝上明子、牟田壽、元田晶子、安浪加余子、山田榮香、ﾕ)けやき、ラフマンモクレスール、訪問看護リハビリステーションはる、和田節子

【募金】
永田佐保子、八木良子、山崎律子、瀬角南、西田真紀、陶山紀美子、山下久代、内兼久和子、黒﨑伸子、馬場キミ子、中園久美子、白倉容代、平川恵子、小野田桂子、杉本潔、久米隆、藤木直幸、志岐玲子、鬼束次男、山崎麻子、安田ふさ代、
障がい者より良い暮らしネット、南原かつ子、重橋亨、大脇為常、幸田あけみ、吉松慶子、江崎好枝、今給黎修、八田喜弘、曾場尾雅宏、畠山万千、手嶋邦知、出水明、深川由紀子、東いずみ、あい薬局宮田秀子、越智越郎、入江住子、髙松利則、渋田枝美、吉岡正和・夏予子、原健太郎・麻由子、前野一代、中林梓、倉光陽大、藤岡美保、上野恭子、宮崎久美子、平山征宏、杉園順代、加藤久和、谷山玲子、松尾邦子・敏郎、あゆみの会（宮辰建設）、竹末みわ子・龍也、山田和男、香原弘明、太田勇司、越智越郎、

【募金箱設置協力】
にのさかクリニック、シーベスト野芥店、さわらスイミング、かも川薬局野芥店、はぴね福岡野芥、高砂園、グリーンビレッジテニスクラブ、春風薬局、宮浦事務所、大木整形・リハビリ医院、岡村ツタエ、グループホームあおい、なごみの家、白熊園、佐田紘子・裕一、岡本ツタエ、山の音楽家 Shana

たくさんのご協力、本当にありがとうございます。心から感謝申し上げます。

特定非営利活動法人
バングラデシュと手をつなぐ会

バングラデシュと手をつなぐ会では、現地ＮＧＯ「ションダニ・ションスタ」とともに、バングラデシュ西部のメヘルプール県・カラムディ村やその周辺地域等で、1989 年から《教育》《保健医療》《生活 向上》の分野で支援活動を行っています。

事　業　内　容

●現地（バングラデシュ）での活動

① 教育(ジャパニ小学校、奨学金制度、ションダニスクール)
② 保健医療（ションダニ病院、ションダニ看護学校、健康教室）
③ 生活向上（インフォメーションセンター）

●国内での活動

① 総会（毎年 5 月)、理事会（毎月 1 回）よる活動方針の決定や運営
② 会報誌『ミロン』を年 2 回、6 月・12 月に発行
③ 現地訪問の実施、報告会実施、報告書作成
④ バングラデシュ料理教室、チャリティバザー、チャリティコンサートなどの開催
⑤ 出張講座や各種イベントでのブース出展などにより、活動紹介

特定非営利活動法人バングラデシュと手をつなぐ会
〒814-0132 福岡市城南区干隈1丁目16−25
ウェンディハイツ 303 号
☎092-407-7701　Fax092-407-7702

email: info@tewotunagukai.com
https://tewotunagukai.com
https://www.facebook.com/tewotunagukai

手をつなぐ会の活動全体の支援

ゆうちょ銀行口座　01720-2-10442
特定非営利活動法人
バングラデシュと手をつなぐ会

ミロン募金（バングラデシュ現地支援）

毎月の定額振替
お問い合わせください

編集後記　Milon

「知らないこと、知ろうとしないことは罪づくり」というフレーズを胸に昨年に引き続きモスク体験ツアーを行いました。多文化共生には対話が欠かせず、無知やアンコンシャスバイアスが引き起こすトラブルを回避するには、まずは相手の発言や行動の裏側にある背景、文化、歴史、宗教などを知ろうとする姿勢が大切なのだと改めて心に刻みました。(やまじぃ)

会　報　名　ミロン 155 号　2024 年 12 月発行
※「ミロン」は、ひとつになる、手をつなぐという意味のベンガル語です。
発行責任者　二ノ坂 保喜
（バングラデシュと手をつなぐ会　代表）
表紙・監修　小畑 麻乙
編集実務担当　山田 英行
校正担当　野田 景子・末岡 智子